

Complex Catheter Therapeutics

CCT2006 Glasnost

Dates | September **20** wed. - **23** sat., **2006**

Venue | Kobe International Exhibition Hall
Portopia Hotel

CCT Website | <http://www.cct.gr.jp/>

CCT2006 Glasnost

Goals and Objectives for the CCT2008



CCT2006 代表世話人

鈴木 孝彦

DESの出現により、虚血性心臓病治療としての冠動脈インターベンション (PCI) 治療は更に大きな飛躍をとげました。従来PCIでは治療困難とされてきた複雑病変をもつ患者たちは、DESの出現以前には冠動脈バイパス手術の適応とされていましたが、現在ではPCIによって効果的に治療を受けることができるようになりました。DESはPCIの適応の拡大／標準化という効果を世界にもたらしました。CCT2006では「New Horizons for CTOs」をキーワードに、PCIにとって最難関であるCTOに対するPCIをメインテーマとしました。そのため、今年ではアジアを中心として、世界より多数のドクターの関心を集め、世界規模のライブデモンストレーションとなったと自負しています。また、今年のCCTはCTOだけでなく、bifurcationとvulnerable plaquesに対する治療戦略の検討など、現在最も関心の高い問題となっているテーマにも焦点をあて、大きな成果を上げることができました。

CCTの特徴のひとつが冠動脈インターベンション治療のみならず、心臓疾患および末梢血管の治療も取り上げていることです。Peripheralコースは組織を再編し、よりグローバルなコースとなるよう拡充し、2日間に亘り脳、頸動脈および下肢血管に対する最新のインターベンション治療を紹介しました。

Surgicalコースはバイパス手術に限らず最前線の外科治療を紹介、普及させるべく更なる充実を図りました。

Electrophysiologyは昨年から本会でライブコースを実現しましたが、より実践的な治療法としてのライブコースが実現できました。

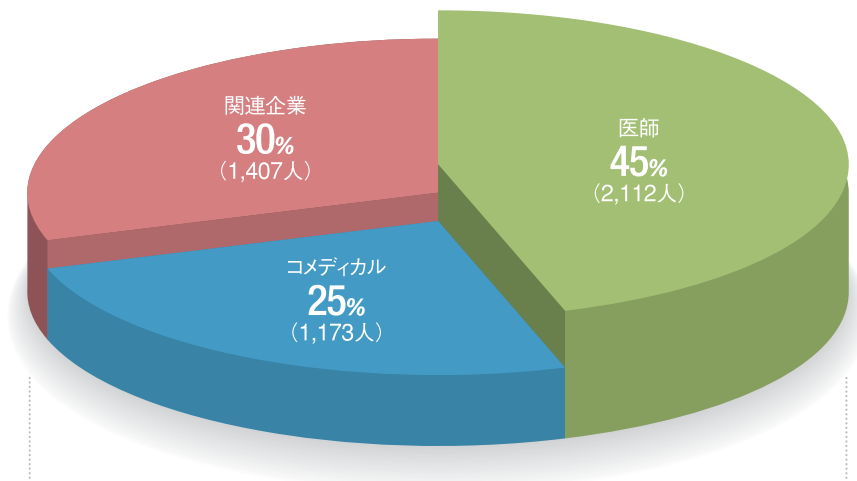
このようにCCTは世界的規模に拡大しており、循環器疾患を、冠動脈

疾患、末梢部疾患、不整脈、外科的、全てにわたって最新治療をさぐり、広めたいという画期的なコンセプトでライブコースを主催しているのです。医療現場で医師と共に重要なコメディカルのスキルアップのためのプログラムもより充実させ、コメディカルに対するライブも実現し非常に好評でした。

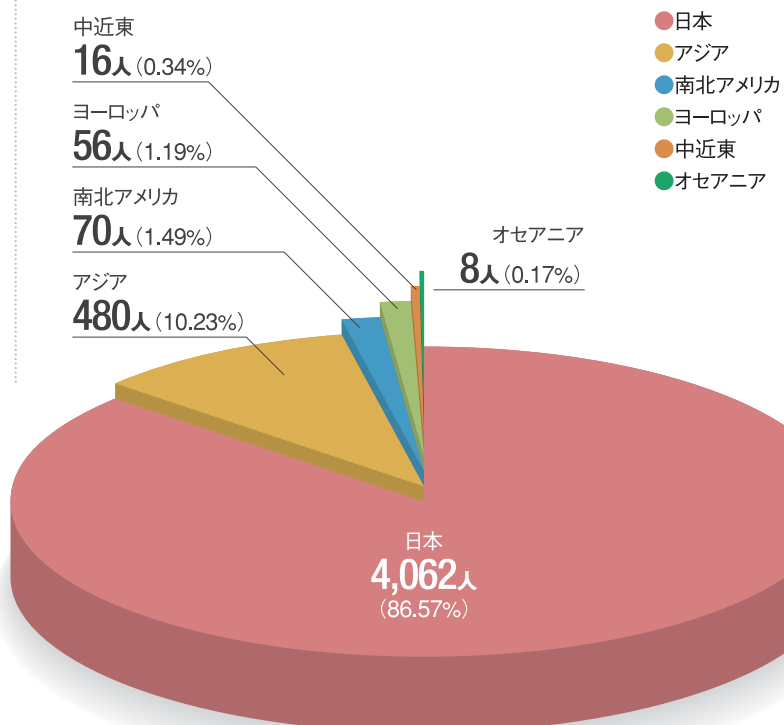
CCTは世界の中でも米国で開催されるTCT、あるいはヨーロッパで開催されるEuroPCRと並んで、世界に冠たるライブデモンストレーションとしてその地位を確立したものと思います。CCTでは世界に発信するアジアを拠点とする世界規模のライブデモンストレーションコースとして更なる飛躍を遂げるために昨年より公式言語を英語としました。これによって海外からの参加者は対前年比46%増の630名となり、海外のドクターとの国際交流を更に推進し、また、アジア各国からのライブ中継を拡大することによって、世界各国からの参加者たちがよりスムーズにコミュニケーションし、お互いから、または共に学ぶことができる環境を実現しました。これらの経験や意見を他分野のエキスパートとわかちあうことによって、学識を広められたことと信じています。他方、日本人の参加者にとっては英語コースとなったことによって十分に理解できない問題が発生しました。これについては英語から日本語への同時通訳を入れることにより問題の軽減に努めました。日本人の参加者にとってはこれでも不十分ではありますが、日本が世界へ発信していくためには英語化は必須であり、CCTでは今後も国際的なライブデモンストレーションコースとして進んでいくために公式言語を英語とし「世界に冠たるライブデモンストレーションCCT」という方向性を守ります。



■ 職種別参加者の状況



CCT2006 参加登録者数 4,692人



■ 地域別参加者の状況

セッション別データ

■ PCI / Masters Live Case Demonstrations

のべ参加者数 (総時間)	<ul style="list-style-type: none"> ● PCI Live Case Demonstrations 症例数 53例 10,620人 (23時間20分) ● Masters Live Case Demonstrations 5,994人 (18時間)
-----------------	---

Masters Liveでは、「New Horizons for CTOs」の6名のMaster達が、手技を中断することなくお見せしました。Main Liveは、Complex Coronary Interventionを軸に、国内外から中継を行いました。公式言語が英語であることが知られてきた効果か、海外の先生方が多く会場に見受けられ、また最終日の中継終了まで多くの方が参加してくださいました。



■ Electrophysiology Live Case Demonstrations

のべ参加者数 (総時間)	935人 (6時間30分)	症例数	11例
-----------------	----------------------	-----	------------



■ Peripheral Live Case Demonstrations

のべ参加者数 (総時間)	2,428人 (12時間30分)	症例数	24例
-----------------	-------------------------	-----	------------



■ Surgical Live Case Demonstrations

のべ参加者数 (総時間)	2,315人 (9時間)	症例数	7例
-----------------	---------------------	-----	-----------



■ Hands-on PCI Training Sessions

のべ参加者数 (総時間)	<ul style="list-style-type: none"> ● Bifurcation stenting 12人 (2時間) ● Troubleshooting 29人 (3時間) ● CTO 27人 (3時間) ● Stent delivery 38人 (5時間30分)
-----------------	---



■ Hands-on Echo Training Sessions

のべ参加者数 (総時間)	133人 (6時間)
-----------------	-------------------

■ Training Course for CART

のべ参加者数 (総時間)	172人 (2時間15分)
-----------------	----------------------

ご協力企業リスト

社名	展示	広告	共催	寄付	社名	展示	広告	共催	寄付
朝日インテック(株)	●	●	●	●	ニプロ(株)	●			●
アステラス製薬(株)		●			日本エラメディカル(株)		●		
アストラゼネカ(株)		●			日本ガイダント(株)				●
アボット・ヴァスキュラー・デバイス・ジャパン(株)	●	●	●	●	日本光電工業(株)	●	●		●
(株)伊垣医療設計				●	日本シェーリング(株)		●	●	
(株)いわさき	●				日本新薬(株)		●		
(株)ウイン・インターナショナル	●				日本ゼオン(株)				●
エドワーズライフサイエンス(株)			●	●	日本バイオセンサーズ(株)	●	●	●	
大塚製薬(株)			●		日本ベーリンガーインゲルハイム(株)			●	
オーバスネイチメディカル(株)	●	●	●		日本メドトロニック(株)	●		●	●
(株)カイセイ医療器				●	日本メドラッド(株)	●			
(株)カネカメディックス	●		●		日本ライフライン(株)	●	●		●
川澄化学工業(株)	●				(株)ネクシス	●			
ガデリウス(株)	●				ノバルティスファーマ(株)				●
協和発酵工業(株)		●			バイエル薬品(株)		●		
(株)クライムメディカルシステムズ	●				(株)バイタル				●
(株)クリニカル・サプライ	●				万有製薬(株)		●		
(株)グッドマン	●	●	●		ファイザー(株)		●	●	
(株)ゲッツブラザーズ	●		●		(株)フィリップスエレクトロニクスジャパン	●		●	
三共(株)		●	●		(株)フォトロン	●			
塩野義製薬(株)		●			フクダ電子(株)	●	●	●	●
シーマン(株)	●				ホスピエラ・ジャパン(株)				●
シーメンス旭メディテック(株)	●		●		ボストン・サイエンティフィック ジャパン(株)	●	●	●	●
(株)島津製作所	●	●	●		ボルケーノ・ジャパン(株)				●
ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)	●	●	●	●	三菱ウェルファーマ(株)				●
住友ベークライト(株)	●				(株)ミハマメディカル	●			
泉工医科貿易(株)	●				(株)メディコン	●	●	●	●
センチュリーメディカル(株)		●		●	横浜社中(株)	●	●		●
ゼオンメディカル(株)	●	●	●		ラディメディカルシステムズ(株)	●			
武田薬品工業(株)		●			(株)リブドゥコーポレーション	●			
田辺製薬(株)		●	●		Bioabsorbable Therapeutics, Inc.	●			
第一製薬(株)		●	●		GE横河メディカルシステム(株)	●			●
大日本住友製薬(株)		●			(株)GP&P	●			
中外製薬(株)		●			(株)JIMRO	●	●		
テルモ(株)	●	●	●		MediGuide Ltd.				●
ディー・ブイエックス(株)	●		●	●	TeraRecon, Inc.	●			
東芝メディカルシステムズ(株)	●		●		(株)VIPグローバル	●			
東レ・メディカル(株)	●				ZLBベーリング(株)	●	●		
トノクラ医科工業(株)	●	●							
日油技研工業(株)	●								

この他にも、多くの製薬企業様より日本製薬団体連合会を通じてご寄付を頂いております。

CCT2006役員リスト

Course Directors

加藤 修
豊橋ハートセンター

齋藤 滋
湘南鎌倉総合病院

鈴木 孝彦
豊橋ハートセンター

玉井 秀男
草津ハートセンター

土金 悦夫
豊橋ハートセンター

Honorary Co-Directors

相澤 忠範
心臓血管研究所付属病院

鏡 寛之
くろがね内科循環器科

小林 亨
中村クリニック

山口 徹
虎の門病院

Course Co-Directors

Giancarlo Biamino
Heart Center of Leipzig ▶ Germany

Antonio Colombo
Columbus Hospital Milan ▶ Italy

Run-Lin Gao
Fu Wai Hospital
▶ People's Republic of China

Eberhard Grube
Heart Center Siegburg ▶ Germany

Tomoaki Hinohara
Sequoia Hospital ▶ USA

Spencer B. King III
Fuqua Heart Center, American
Cardiovascular Research Institute
and Emory University ▶ USA

Martin B. Leon
Columbia University Medical Center,
Cardiovascular Research
Foundation ▶ USA

Jean Marco
Clinique Pasteur ▶ France

James R. Margolis
Miami International Cardiology
Consultants ▶ USA

Marie-Claude Morice
Institut Hospitalier Jacques Cartier
▶ France

Jeffrey W. Moses
Columbia University Medical Center,
Cardiovascular Research
Foundation ▶ USA

Seung-Jung Park
Asan Medical Center ▶ Korea

Nicolaus J. Reifart
Main Taunus Heart Institute
▶ Germany

Patrick W. Serruys
Thoraxcenter ▶ The Netherlands

Gregg W. Stone
Columbia University Medical Center,
Cardiovascular Research
Foundation ▶ USA

Japanese Course Co-Directors

一色 高明
帝京大学医学部附属病院

金谷 法忍
石川県立中央病院

木島 幹博
星総合病院

齋藤 太郎
福岡和白病院

南都 伸介
関西労災病院

西川 英郎
三重ハートセンター

治田 精一
福山循環器病院

平山 治雄
名古屋第二赤十字病院

舟山 直樹
北海道循環器病院

Consultant Course Directors

Remo Albiero
Clinica San Rocco di Franciacorta
▶ Italy

Gregory A. Braden
Cardiology Specialists of North
Carolina ▶ USA

Maurice Buchbinder
Foundation for Cardiovascular
Medicine, Scripps Memorial Hospital
▶ USA

Kenneth Chin
Pantai Medical Center ▶ Malaysia

Carlo Di Mario
Royal Brompton Hospital ▶ U.K.

Jean Fajadet
Clinique Pasteur ▶ France

Tian Hai Koh
National Heart Centre ▶ Singapore

Richard E. Kuntz
Brigham and Women's Hospital
▶ USA

Thierry Lefevre
Institut Cardiovasculaire Paris Sud
▶ France

Bernhard Meier
Swiss Cardiovascular Center,
University of Bern ▶ Switzerland

Gary S. Mintz
Cardiovascular Research
Foundation ▶ USA

Teguh Santoso
Medistra Hospital ▶ Indonesia

Robaayah Zambahari
National Heart Institute Malaysia
▶ Malaysia

Course Organizing Committee

赤阪 隆史
和歌山県立医科大学

朝倉 靖
慶應義塾大学医学部

上田 欽造
洛和会音羽病院

小田 弘隆
新潟市民病院

瓦林 孝彦
東住吉森本病院

菊池 文孝
はちのへハートセンタークリニック

木下 順久
豊橋ハートセンター

許 永勝
草津ハートセンター

近藤 泰三
小牧市民病院

齋藤 穎
日本大学医学部

角辻 暁
野崎・名古屋徳州会病院

田巻 健治
岩手県立中央病院

中村 茂
京都桂病院

中村 淳
新東京病院

中村 正人
東邦大学医療センター大橋病院

西田 育功
高清水高井病院

野崎 洋一
北光記念病院

林 孝俊
兵庫県立姫路循環器病センター

藤井 謙司
桜橋渡辺病院

古川 啓三
京都市立病院

細川 博昭
国立病院機構豊橋医療センター

松原 徹夫
豊橋ハートセンター

宮崎 俊一
近畿大学医学部

山口 浩士
天陽会中央病院

Electrophysiology Course Organizing Committee

相原 直彦
国立循環器病センター

池口 滋
滋賀県立成人病センター

沖重 薫
横浜市立みなと赤十字病院

副島 京子
慶応義塾大学医学部

内藤 滋人
群馬県立心臓血管センター

Peripheral Course Organizing Committee

伊刈 裕二
東海大学医学部

坂井 信幸
神戸市立中央市民病院

中村 正人
東邦大学医療センター大橋病院

南都 伸介
関西労災病院

横井 良明
岸和田徳州会病院

Surgical Course Organizing Committee

大川 育秀
豊橋ハートセンター

米田 正始
京都大学医学部

南淵 明宏
大和成和病院

夜久 均
京都府立医科大学

Co-medical Course Organizing Committee

相田 伸二
京都大学医学部附属病院

荒居 広明
心臓血管研究所付属病院

稲田 毅
豊橋ハートセンター

大石 景子
国立病院長崎医療センター

小早川 香樹
滋賀県立成人病センター

小味 昌憲
熊本大学医学部附属病院

添田 信之
星総合病院

高橋 裕一
新東京病院

辻井 正人
三重ハートセンター

中山 美恵子
桜橋渡辺病院

鯉井 秀之
健保連大阪中央病院

平田 和也
北海道社会保険病院

藤田 光広
川崎社会保険病院

三上 剛人
学校法人吉田学園

守屋 元
大和成和病院

柳沼 昇
心臓血管センター北海道大野病院

CCT2008の活動予定 およびご支援のお願い

CCT2006は9月21日から23日の3日間、神戸国際展示場にて開催され、総参加者数は前年比9.5%増の約4,700名となりました。これもひとえに皆様のご協力の賜物と感謝致しております。また、昨年より公式言語を英語としたことにより、海外からは35ヶ国から630名（前年比46%増）の参加者が集いました。この海外参加者増については、CCTがCTOの治療において世界中から注目を集めていることのみならず、国際的なライブコースとして認識されていることを表しているものと実感いたしております。

今年は、神戸国際展示場3号館の新設にともない、企業様共催セミナーを含むシンポジウムやレクチャーのプログラムを3号館で開催いたしました。参加者の皆様からは、全ての会場が1箇所に集約されており便利であったとの評価を頂きました一方、音声が届き取りにくいのご意見を賜りました。仮設会場での開催のため設備不十分により、ご迷惑をおかけいたしましたこと、心よりお詫び申し上げます。

CCT2006のプログラムの特徴として、ライブデモンストレーションの一層の充実があげられます。マスターズライブコースではCTOの症例を中心にCCT世話人の手技ならびに、ゲストオペレ

ーターとして光藤和明先生の手技を皆様にご覧頂きました。また、Peripheralコースは2日間のライブコースとなり、より充実したプログラムをご提供いたしました。さらに、トレーニングコース等の教育的プログラムや、Hands-on PCI Training Sessionsに代表される参加型セッションなど、今までにない新設プログラムが参加者の皆様の支持を得ました。このような中、企業様共催の趣向をこらしたランチョンセミナーやファイアースイドセッションはどの部屋もほぼ満室でありましたことをご知らせしておきたいと思っております。

CCTは、今後も治療困難症例に対する最新の治療法および新しい診断技術についての研究、検証、普及を目指して活動し、日本から世界へと発信を続けるライブコースとして発展していきたいと考えております。企業の皆様にとっても、血管カテーテル治療だけでなく不整脈治療や外科的な治療も含めた循環器疾病治療のエキスパートが集まる、製品プロモーションのための投資価値の高いライブコースであると自負しております。

次回より会期を1月末に移すことになり、より多くの先生方にご参加頂けるものと信じております。今後とも皆様方のご理解とより一層のご支援を賜りたくお願いする次第です。



Next meeting

CCT2008

Dates | January **31** thu. - February **2** sat., **2008**

Venue | Kobe International Exhibition Hall
Portopia Hotel



共催プログラム 展示・広告 スケジュール

- 2007年6月 ● 共催プログラム・展示・広告申込受付開始
- 2007年7月 ● CCT2008開催説明会
- 2007年8月末 ● 共催プログラム・展示・広告申込受付締切
- 2007年10月末 ● 共催プログラム・展示出展社説明会

Next meeting...
Complex Catheter Therapeutics

CCT 2008

Dates | January **31** thu. - February **2** sat., **2008**

Venue | Kobe International Exhibition Hall
| Portopia Hotel



CCT Secretariat

1-15-25 Maedaminami-machi,
Toyohashi, Aichi 440-0851 Japan
Tel: +81(0)532-57-1275
Fax: +81(0)532-52-2883